

アメリカコハクチョウとコハクチョウの交雑記録

沢田 隆

925-0047 石川県羽咋市御坊山町13-3

VYU04102@nifty.ne.jp

石川県の邑知潟でアメリカコハクチョウが初めて観察されたのは1993年11月である。その後、1999年度シーズンから5シーズン連続確認されている。

2004年11月、コハクチョウとの交雑と見られる幼鳥2羽を確認した。寄り添うアメリカコハクチョウとコハクチョウであったことから、これらは家族と考えられる。

採食飛翔、埽入りなど絶えず4羽で行動し、他のコハクチョウ幼鳥が近づくとアメリカコハクチョウの方が追い払い、幼鳥もアメリカコハクチョウから余り離れなかった(図1)。

アメリカコハクチョウは1993年の初認個体と同一と見えるが、嘴の黄斑はもともと小さく、識別は困難である。

コハクチョウは1993年の初認の時、アメリカコハクチョウと行動を共にしていた個体とは別個体である。

ここに、純系からの交雑初代出現で、数年後には交雑2世の可能性もある。

幼鳥の黄斑嘴パターンは2月中旬になっても不明瞭で、白色からの黄変部は幼鳥

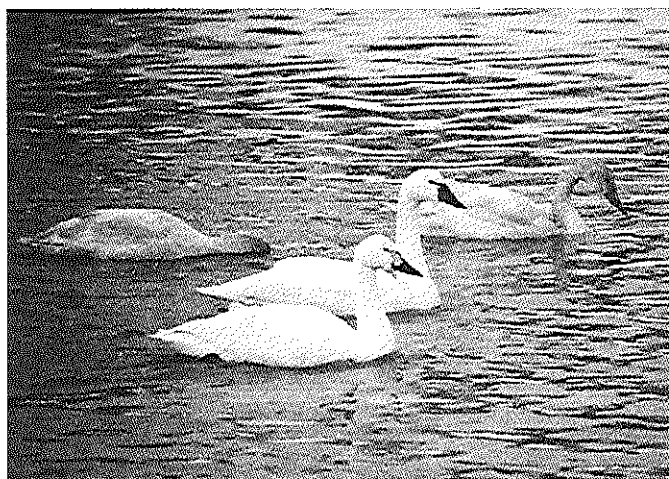


図1. 交雑個体のいる家族群

Takashi SAWADA. A record of hybrid of *Cygnus columbianus jankowskyi* and *C. c. columbianus* in Ishikawa Prefecture.

1では確認出来ず、幼鳥2ではコハクチョウに比較し小さく残っていた(図2)。一般にコハクチョウの幼鳥では、3月頃には嘴の黄斑部おおむね黄変しているが、交雑幼鳥ではそれが確認出来なかった。

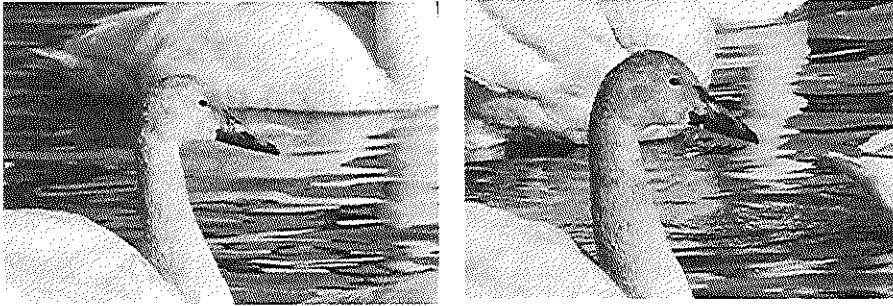


図2. 幼鳥1(左)と幼鳥2(右)の側面。幼鳥1の嘴中央で白く見えるのは撮影時の光反射。

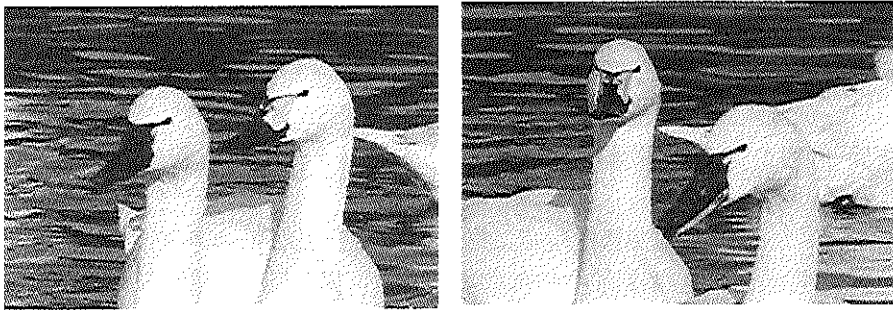


図3. アメリカコハクチョウとコハクチョウの黄斑パターン(2カット)

交雑一家の越冬記録

越冬場所：石川県羽咋市南潟町、邑知潟左岸水田(メッシュコード5536-36-05)

経度136°49'10"、緯度36°55'14"

初認：2003年11月17日

終認：2004年3月9日

(※初認以前の飛来、終認以後の飛去可能性有り。)